

第 380 回
日本泌尿器科学会新潟地方会
《 プログラム・抄録 》

日 時：平成 28 年 12 月 10 日（土）午後 3 時 00 分
会 場：新潟グランドホテル 5 階 『常磐の間』
新潟市中央区上大川前通 3 ノ町 025-228-6111

次回 第 381 回新潟地方会予告
日時：平成 29 年 3 月 4 日（土）午後 2 時
会場：未定
演題申込期限：平成 29 年 2 月 17 日（金）

- ※ すべて PC のみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7 分。討論 3 分（時間厳守）

951-8510 新潟市中央区旭町通 1 の 757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025（227）2289/FAX：025（227）0784
会長 富田 善彦

1. 低血糖症状を呈した後腹膜原発 solitary fibrous tumor の1例

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科¹⁾、同 内分泌科³⁾、佐渡総合病院 泌尿器科²⁾
渡邊和博¹⁾、瀧澤逸大¹⁾、丸山 亮¹⁾、笠原 隆¹⁾、原 昇¹⁾、石崎文雄²⁾、横川かおり³⁾、
金子正儀³⁾、富田善彦¹⁾

症例は68歳、女性。低血糖発作で緊急入院となり、精査のCTにて脾尾部または左腎由来の10cm大の腫瘍を認めた。摘出術を施行し、腫瘍は被膜を介して腎実質と接した後腹膜原発であり、免疫染色の結果 solitary fibrous tumor (SFT) と診断された。術後に低血糖は改善し、IGF II 産生 nonislet cell tumor hypoglycemia (NICTH) と考えられた。若干の文献的考察を踏まえて報告する。

2. 腎癌に対する分子標的薬 Axitinib で末期腎不全に至った2症例

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科
村田 雅樹、山名 一寿、田崎 正行、斎藤和英、富田 善彦

進行性腎癌の2nd line 標準治療薬である Axitinib は、有害事象(AE)としてタンパク尿が高頻度で認められるものの、腎機能障害は比較的稀であるとされている。腎障害の機序として腎臓の直接障害、尿細管の閉塞、腫瘍崩壊に伴うもの等が考えられているが詳細はまだ不明である。今回 Axitinib により末期腎不全に至った症例を2例経験し、うち1例は血液透析の導入を要した。末期腎不全に至るほどの腎障害の頻度は多くないものの重大な合併症であり、分子標的薬の AE マネジメントとして留意を要する。

3. 尿管腫瘍に対して尿管部分切除術を施行した12例の臨床的検討

中山 亮¹⁾、羽場知己¹⁾、加藤智規^{1), 2)}、川口 誠³⁾、小池 宏¹⁾
新潟労災病院泌尿器科¹⁾、帝京大学ちば総合医療センター²⁾、新潟労災病院病理診断科³⁾

2004年1月から2016年9月までに尿管腫瘍に対して尿管部分切除術を施行した、12症例について検討した。1例は単腎症例に生じた上部尿管腫瘍の症例であったが、残りの11例は片側の下部尿管腫瘍の症例であった。中央値46(1~148)ヶ月の観察期間で、6例は再発や転移を認めず、4例は根治可能な膀胱再発のみで、この10例(83.3%)は、良好な治療効果を得られた。術前後の腎機能の検討では、術前 eGFR は平均 61.1 ± 14.2 ml/min/1.73 m² で、術後1年での eGFR は平均 61.7 ± 13.1 ml/min/1.73 m² であり、有意な低下を認めなかった($p=0.80$)。

4. 当院での腎出血に対する動脈塞栓術の検討

新潟県立中央病院 泌尿器科¹⁾、同 救急科²⁾、同 放射線科³⁾、
新潟県立がんセンター 泌尿器科⁴⁾
風間明¹⁾、水澤隆樹¹⁾、片桐明善¹⁾、石川晶子⁴⁾、広瀬由和²⁾、奥泉謙³⁾、木原好則³⁾

対象は2015年4月から2016年10月までに外傷または非外傷性の腎出血に対して動脈塞栓術を施行された患者6例。腎外傷が3例、非外傷性出血(AML自然破裂、腎部分切除術後出血、腎動脈瘤破裂)が3例であった。外傷例はいずれも鈍的外傷による深在性損傷(ⅢaまたはⅢb: JAST分類2008)であった。3例でTAE後の発熱と疼痛を認めたが、重篤な合併症は認めなかった。外傷、非外傷例についてそれぞれ症例を提示し、若干の文献的考察を含めて報告する。

5. 膀胱全摘除術後のイレウスに対して高圧酸素療法が奏功した1症例

長岡赤十字病院 泌尿器科
池田正博、鈴木一也、米山健志

【緒言】術後イレウスは重要な周術期合併症のひとつである。保存的加療で軽快することも多いが、イレウス管の挿入や癒着剥離術など侵襲的な治療が必要になる場合もある。【症例】77歳男性。膀胱尿道全摘術+回腸導管造設術を施行後イレウスとなり経鼻胃管挿入し保存的に加療したが改善せず。術後8日目より高圧酸素療法を5日間施行しイレウスは改善した。【結語】イレウスに対する高圧酸素療法の奏効率は高く有用な治療法である。

15:50~16:40

座長 信下 智広

6. Immuno-oncology drugs (新規がん免疫療法薬)の初期使用経験

新潟大学大学院 腎泌尿器病態学・分子腫瘍学
山名一寿、丸山亮、瀧澤逸大、田崎正行、安楽力、黒木大生、笠原隆、富田善彦

急速に開発が進んでいる免疫チェックポイント阻害薬は、腎細胞癌に対してニボルマブが本邦においても認可された。有効性の一方で、“腫瘍免疫のブレーキを外す”という性質から、行きすぎた免疫反応に伴う自己免疫疾患様の有害事象(immune related AE: irAE)を呈することが知られている。メラノーマや肺癌で先行使用されているが、限られた施設、限られた医師にとどまっているのが現状で未知の部分も多い。我々の初期使用経験を披露する。

7. 径10cmの右腎孤発性血管筋脂肪腫に対する 動脈塞栓術を併用した腹腔鏡下腎動脈無遮断腎部分切除術

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 泌尿器科¹⁾、消化器内科²⁾、放射線診断科³⁾
星井達彦¹⁾ 森田慎一²⁾ 池田洋平³⁾ 西山勉¹⁾

径10cmの右腎孤発性血管筋脂肪腫(AML)と診断された38歳の女性に対し、動脈塞栓術を併用した腹腔鏡下腎動脈無遮断腎部分切除術を施行した。患者は入院後、右腎AMLへの栄養動脈を選択的に塞栓した。その翌日、腹腔鏡下に右腎動脈を遮断せず、AMLと腎実質の境界部位で腎部分切除術を行った。腫瘍は完全に切除され、尿路の開放はなかった。腎実質縫合は行わず、組織接着シートを貼付し、止血操作を終了した。手術時間は4時間11分で、出血量は780mlであったが、術前貯血した自己血を輸血し、日赤血は使用しなかった。

8. 泌尿器科における新潟市医療圏の病病連携を考える

新潟市民病院 泌尿器科
今井智之

厚労省は今後の医療のあり方を考える上で、母体の違いを越えた病院間の地域医療連携を提案している。今回、新潟市医療圏において泌尿器科常勤医がいる6病院の代表者にアンケートをお願いし、病病連携に対する考えを集計した。結果、泌尿器科の病病連携は現状ではまだ不十分であり、今後進めるべきで、自身の病院にもメリットがあるとの考えが多数だった。ただし、今以上に病病連携に貢献できるかの質問では、十分余力があるとの回答は無く、各病院の体制をふまえて協議していく必要性を感じた。

9. 当院研修医に対する TUR 技術の指導法

済生会新潟第二病院 泌尿器科
吉水 敦、車田 茂徳

2015年と2016年当院で初期研修医2人にTUR技術の基礎を指導した。まず外来で軟性膀胱鏡を使用し、内視しながら内視鏡を挿入することや膀胱内を観察する基礎を指導した。ついで切除鏡の基本操作技術・観察技術・止血技術をHoLEP症例で段階を追って指導したが、効率的な指導が可能であったのでその指導法について報告する。

10. 木戸病院における排尿自立指導料算定のための排尿ケアチームの設立

新潟医療生活協同組合 木戸病院 排尿ケアチーム
北村康男、江川真紀子、佐藤恵美子、笹岡ひかる、田澤一枝 藤野正和、荒木祐子

2016年の診療報酬改定にて、排尿自立指導料200点(6回まで)が算定可能となり、泌尿器科専門医、所定の研修を修了した看護師、下部尿路機能障害を有する患者のリハビリテーション等の経験を有する専任の常勤理学療法士などからなる排尿ケアチームを設立した。目的は下部尿路機能の回復のための「包括的な排尿ケア」にて排尿自立指導を行うことで、この指導によりADLの維持・増進をもたらす、結果として早期退院・寝たきり患者減少につながることを期待した。

《休憩 16:40~17:00》

新潟泌尿器科同窓会総会

17:00~17:30

[会場 5階 常磐の間]

新潟 Urology Seminar

17:50~19:00

[会場 5階 常磐の間]

新潟地方会・同窓会合同懇親会を総会終了後3階「悠久の間」で行います。

Niigata Urology Seminar

日時

2016年**12月10**日(土) **17:50~19:00**

会場

新潟グランドホテル 5階 『常盤の間』

住所：新潟市中央区上大川前通3ノ町 TEL 025-228-6111

◆情報提供

17:50~18:00

『**GnRHアンタゴニスト(徐放性) / 前立腺癌治療剤
ゴナックス皮下注用 最近の話題**』

◆Expert Lecture

18:00~19:00

座長

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

教授 **富田 善彦** 先生

『**腎癌治療における最新の知見**』

演者

獨協医科大学 泌尿器科学講座

主任教授 **釜井 隆男** 先生

主催：アステラス製薬株式会社